



こもりうた

園長 山中 文

子どもたちが寝ている光景はいつ見てもいいものです。子どもだけでなく、そばにいる大人にもやすらぎが与えられるように思います。寝ている子どもの背中をそおっとトントンとたたくのは、人間の生得的な行動でしょうか。自然と出てくる姿のようにみえます。

このトントンとたたく速さは、こもりうたの速さと大体一緒です。トントンとたたきながらうたう場合も多いので、当然といえば当然ですね。そして、この速さは、世界のどのこもりうたも同じです。

こもりうたはこどもを寝かせる時にうたううたですが、世界には実にさまざまなこもりうたがあります。代表的なのは、シューベルトやモーツァルト、ブラームスのこもりうたのように、眠る我が子にそっとうたいかける（諸説ありますが）ものでしょう。ですが、世界の各地には、たとえば、戦争に兵士として行った夫を気遣った内容を、戦地の方を向いて夫に届けんとばかりに大声で叫ぶようなものもあります。日本のこもりうたにも、「五木の子守唄」のように、子守り奉公に出された「守り子」たちが、自分たちの身の上やつらさをうたっているものがあつたり、「島原の子守唄」のように、からゆきさんとして海外に売られていった女性たちのことがうたわれるなど社会情勢が反映されるものがあつたりしていることは、よく知られていることでしょう。

しかし、どんなに叫んでも、どんなに悲しさやつらさを歌っても、不思議に、その速さは大体一定なのです。トントンの速さというのは、人を落ち着かせる速さなのかもしれません。

私は、自分の子どもが小さい頃、寝かせる時は、絵本を読んだあとによくでたらめなこもりうたをうたいました。わらべうたのように抑揚をつけながら、その日あったことをただ唱えただけのものです。‘Tくんはね、きょうもたくさん遊んだよ カレーをたべてヨーグルトもペロリ はらぺこあおむし読みました いっぱい遊んで、おーやすみ いーまはもう、おーやすみ おーやすみ …Tくんはもう、ゆめのなか’ みたいな感じです。最初の食べたものや読んだ本の話のあたりは親子でお互いクスクスしていますが、だんだん‘おーやすみ’‘おーやすみ’をエンドレスで唱えながら、トントンを繰り返していくうちに寝たものでした。うっかり私が先に寝てしまって、逆に子どもにトントンしてもらったなんてこともありましたが、今思い出しても幸せな時期です。

4、5月がすぎ、幼稚園では子どもたちが落ち着いていろんな遊びを展開できるようになっていますが、お家ではどうでしょうか。ぜひちょっとした間、トントンが生み出すような時間と空間をお子様と味わっていただければと思います。そうそう、でたらめなこもりうたは、あまり歌詞を創作しすぎると目が冴えてしまいますから、ほどほどにして、次第にエンドレスで同じことばをくりかえす方がよいようですよ。

